

# 流通設備効率の向上に向けて

2019年 12月10日  
広域系統整備委員会事務局

1. 地内システムの混雑管理等に関する勉強会の設置について
2. 試行ノンファーム適用システムの課題整理

## (第44回における整理)

- 整理が急がれる試行ノンファーム適用系統における電源の廃止やリプレースによって生じた空容量の取り扱いについては、広域系統整備委員会で整理していく。
- 将来を見据えた混雑管理方法や他制度との整合を図るべき課題、既存電源の契約の在り方等の議論は、別途勉強会を立ち上げ議論していく。

## (委員からのご意見)

- 試行ノンファーム適用系統の空容量の取扱いについては、ノンファームとファームの権利や取り扱いがどのようなものなのか、ある程度方向性が見えていないと、議論しにくい。
- 今後もファームを残していくのかノンファームにしていくかの方向性の中で、供給力不足が起こらないのなら、ノンファームで柔軟に運用することで、増強しない方向性がよいのではないか。
- 当面、限られた系統で空容量はノンファームが利用する案2でやってみて、具体的な事例を見ながら検討してはどうか。



- 試行ノンファーム適用系統における空容量の取扱いについては、ノンファームが利用する案2としてはどうかというご意見や託送料金（混雑料金）の導入を急ぎ検討すべきというご意見があった。
- 今回、地内系統の混雑管理方法に関する勉強会の設置に向けた状況報告をさせていただくとともに、試行ノンファーム系統における空容量の取扱いについてご議論いただきたい。

## (参考)今後の検討体制について

- 混雑管理方法の議論は、今後の電力システムの将来像を見据えた検討や、既存電源の権利に関する検討などが必要であり、重要論点に係るため、国での議論が必要となる。
- 一方で、試行的にノンファーム型接続を開始する系統もあり、前述したような早急に対処すべき課題もあることから、混雑管理方法の議論はスケジュール感を意識した検討が必要となる。
- 加えて、混雑管理とは、本来、混雑系統を増強していくべきか、混雑を許容していくべきかといった設備形成の在り方に関する議論と一体で考えていくべき課題である。
- このため、「試行」としてノンファーム型接続を開始した系統で急ぎ検討すべき課題（試行ノンファーム適用系統での混雑管理）など、直面している設備形成に関する課題については、引き続き広域系統整備委員会で検討を進めていくこととしてはどうか。
- 他方、将来を見据えた混雑管理方法や他制度との整合を図るべき課題など将来の電力システム全般に係る議論や既存電源の契約の在り方等の議論などは、別途勉強会等を立ち上げ議論していくこととしてはどうか。

広域系統整備委員会	勉強会（新規）
<p>【直面している設備形成に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試行ノンファーム系統に限定し、急ぎ検討が求められている課題（試行ノンファーム系統への混雑管理方法の導入検討）</li> <li>・設備形成の在り方としての議論</li> </ul>	<p>【その他の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場分割などの将来を見据えた混雑管理方法など電力システム全般に係る議論</li> <li>・他制度と整合を図るべき課題</li> <li>・既存電源の契約の在り方等の議論</li> </ul>

1. 地内系統の混雑管理等に関する勉強会の設置について
2. 試行ノンファーム適用系統の課題整理

## 【背景】

- 広域機関では、「コネクト&マネージ」の検討を進め、「N-1電制（先行適用）」など既設設備を活用した新たな電源接続のニーズに応える施策の導入を進めている。
- それにより、基幹系統において空容量が不足し、増強ニーズが高まっているが、現状の費用負担の在り方（基幹系は一般負担）の中で「接続義務」により増強を行うと、結果的に非効率な設備形成となり、電気料金の増加につながるおそれがある。
- このため、費用対効果や対策工事の実現可能性といった観点を総合的に勘案し、電気事業法の「接続義務」における「その他正当な理由」の範囲内で、適切に増強の必要性判断をしていく仕組みである費用便益評価を取り入れると共に、増強することが適切ではない系統（ノンファーム適用系統）では、平常時の出力制御を前提としたノンファーム型接続の適用を試行的に開始する（混雑を前提とした設備形成とする）こととした。
- 今後、ノンファーム適用系統が増加していくと考えた場合、新規事業者が、将来に亘り平常時の出力制御を前提としたノンファーム型接続しか選択肢がないということについて、送電線利用の公平性や権利の流動化の観点からの意見もあり、合理的かつ適切な混雑管理方法について検討が求められている。



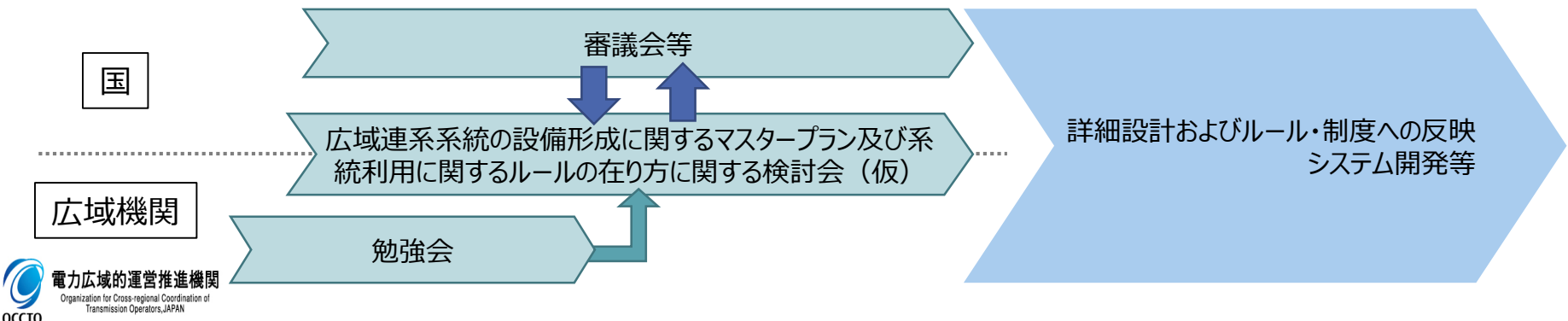
## 【目的】

- 他制度との整合、既存電源の契約の在り方も踏まえつつ、**経済合理性や運用合理性などを考慮した合理的な混雑管理の方法・得失・効果などについて整理**することを目的とする。

- 本機関事務局が設置する勉強会とする。
- メンバーは、中立者、有識者、事業者（一般送配電、発電、小売）など、幅広い議論が行える構成とする。
- 本勉強会の目的に照らして、自由闊達な意見交換の妨げとならないよう、原則として、会議は非公開とする。  
ただし、勉強会に用いた資料および議事要旨については、個別の事業者の利害に関する事項や会議における発言者氏名を除き、当機関ウェブサイトにおいて、公開することとする。
- 本勉強会は、方向性を含め決定する場ではなく、幅広く議論を行う場とする。
- 具体的に仕組み等を決定していく場については、原則公開で議論を行う検討会（または委員会）に移行する。

項目	内容
勉強会での論点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を見据えた短期的課題への対応について議論 ⇒試行ノンファーム適用系統の合理的な混雑管理方法について</li> <li>・長期的課題への対応について議論 ⇒全国にノンファーム型接続を拡大していくことを想定した統一的な仕組みとしての合理的な混雑管理方法、混雑料金、既存契約の取扱い等について</li> </ul>
アウトプットイメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における合理的な混雑管理方法の提案</li> <li>・各案について関係者等から意見出しを行い得失等を整理</li> </ul>
委員会との棲み分け	<p>広域系統整備委員会では、整理が急がれる試行ノンファーム適用系統の空容量の取扱いについて議論（試行ノンファーム系統への新たな混雑管理方法の導入等については、勉強会で議論）</p>

【今後の展開のイメージ】





1. 地内系統の混雑管理等に関する勉強会の設置について
2. 試行ノンファーム適用系統の課題整理

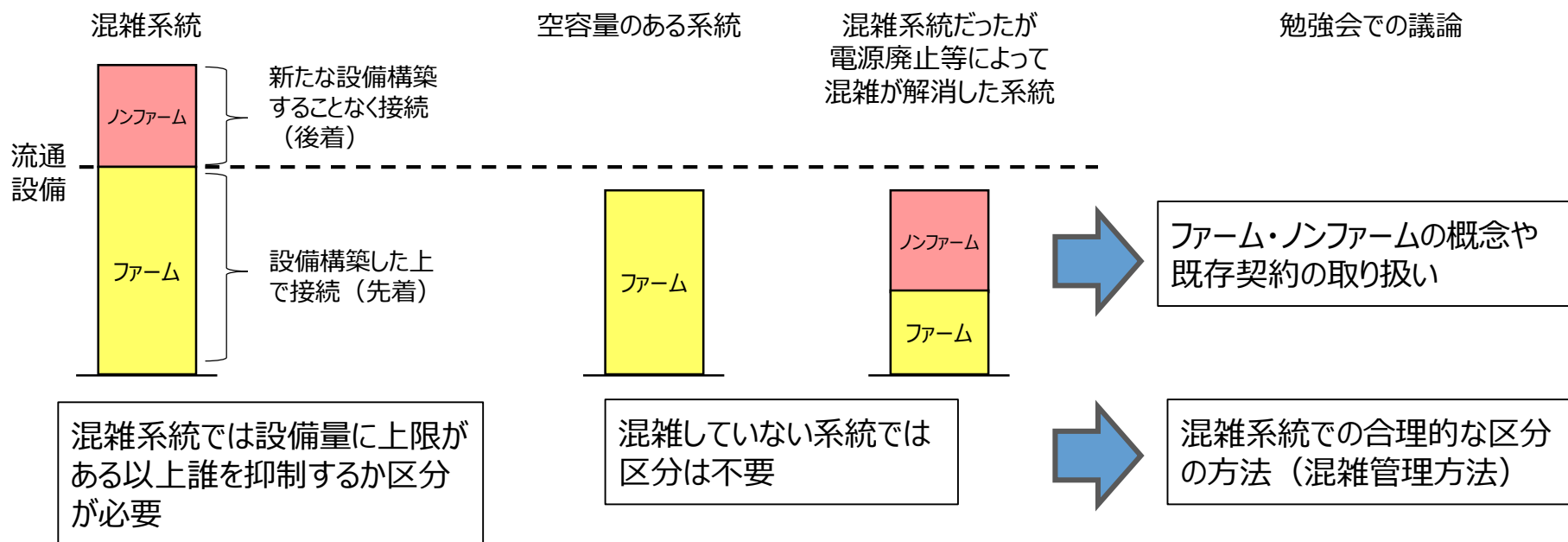
(余白)

- 試行ノンファーム適用系統における空容量の取り扱いは、現行ルールの継続が困難である以上、早急に決めておく必要があることから、当面の対応として、新たな仕組みの導入を必要としない「案2 試行ノンファーム電源が一律に利用する」こととしてはどうか。

	現行 (募集プロセス)	案1 先着順	案2 ノンファームが 空容量を利用	案3 空容量を入札
運用容量	<p>設備容量 電源廃止</p>	<p>先着順に空容量を利用</p>	<p>試行ノンファーム電源が一律に利用</p>	<p>入札により利用する電源を決定</p>
設備増強	<p>設備増強</p>			
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望者は全てファーム電源として接続可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空容量の範囲内で先着した事業者はファーム電源として接続可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノンファームは一律に抑制率が軽減される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済性に基づき空容量の範囲内でファーム電源として接続可能</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>試行ノンファーム適用系統は増強できない(しない)ため、増強を前提とした現行の仕組みの継続は困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存ファーム電源のリリース時、募集プロセスへ移行し、仕組みの継続が困難となる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファーム電源としての接続はできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入札など新たな仕組みの構築が必要</li> </ul>

- 試行ノンファーム適用系統における空容量の取り扱いは、現行ルールの継続が困難である以上、当面の対応を早急に決めておく必要がある。
- しかし、混雑系統の空容量の取り扱いは、ファーム電源、ノンファーム電源の概念や混雑管理方法等に関わる問題であり、将来を見据えた検討が必要である。
- このため、試行ノンファーム適用系統への合理的な混雑管理の仕組みの導入については、他制度との整合、既存契約の取り扱いを含めて、引き続き勉強会で議論していく。

### 【ファーム電源とノンファーム電源】



■ 混雑管理方法については、可能な限り早期の仕組み構築を目指して勉強会で議論を進める。

取り組み	2019				2020	2021	2022	2023以降
	1Q	2Q	3Q	4Q				
想定潮流の合理化 ガイドライン改定		改定方針 検討	影響 評価	改定案 作成	GL 改定	運用 開始		
N-1電制 本格適用	機会損失費用 の検討				規定類・約款改定の 必要性等の検討	規定類等の改定	本格 適用 開始	
	精算システムの 具体的対応検討		精算システム開発					
試行ノンファーム型接続 および暫定接続	仕組みの検討 出力制御システムの具体的 検討		具体的な運用開始時期は、当該システムへの適用決定から3年程度後となる (適用が決定したシステムから順次、出力制御システムが導入されるため)					
		適用開始 ※1	規定類・約款改定の 必要性等の検討			規定類等の改定		
混雑管理方法			勉強会			可能な限り早期の仕組み導入を目指す		

※1 具体的な適用システムについては別途判断